



# 6月 園だより

社会福祉法人雲柱社  
五日市保育園

日々の気温差に体が疲れやすい季節ですね。そろそろ梅雨入りでしょうか。

雨が降った後、保育園の園庭にはいつも水たまりが出現します。水たまりが大きいと、子どもたちは園庭に出られないこともあります。これまでは大人が行っていた「水たまり処理隊」の仕事を、幼児クラスさんがバケツやスポンジを手にお手伝いしてくれました。たくさん感謝され「またいつでもやってあげるよ！」と嬉しそうでした。その後も園庭に水たまりがあるのを見かけると「俺たちが片付けようか」と担任に声をかけてくれるそうです。ほんの一場面ですが、大人がすべてを整えてあげるのではなく、こども自身にも自分たちの生活や遊びを整えるお手伝いをしてもらったことで、共に生活している楽しさを改めて実感できました。おうちでもお掃除や食事の支度、片づけなどぜひお手伝いしてもらってください。きっと楽しい時間になることと思います。



## 「手当て」

「手当て」という言葉は、傷の手当てや応急手当などに使われるほか、賃金に関して使われることもあります。言葉の由来にはいろいろな説がありますが、「病気やけがをした際、患部に手を当てて治療したことが由来である。」という話を聞いたことがあります。どこか痛いときに、無意識に痛いところに手を当てていることがあります。おなかが痛くてさすってもらったり、悲しいときに誰かに背中をさすってもらったりしたら不思議と痛みが和らいだ…などの経験はありませんか？最近では医療の場においても痛みや不安の緩和に繋がる「タッチケア」として導入されているようです。手にはぬくもりや安心感を伝える不思議な力があるのですね。

こどもは不安な気持ちをまだ言葉で上手に表現できないため、ぐずぐずしたりイライラしたりという表現をすることもあります。そんな時には「手当て」をしてみてください。そっと手を添える、優しく頭をなでる、ほっぺたに触れる、抱っこする…。上手な言葉はかけられなくても、理由はわからなくても大丈夫です。忙しい毎日、眠る前のひと時でいいのです。心の「手当て」をしてみてください。とくに弟や妹が生まれてお兄ちゃんやお姉ちゃんになったこどもたちは「赤ちゃん返り」をして、今まで出来ていたことが出来なくなったり、甘えてわがママを言うなど「自分に振り向いてくれなくなった」(と感じる)不安を表すことがあります。下の子が寝た後、一緒にゆっくりふれあい遊びをしたり、時には上の子と二人だけで出かけてみるなど特別な時間を持つのもいいですね。兄弟それぞれに少しずついいので「特別な時間」が出来ると一人ひとりが「自分は大切にされている特別な存在」ということを感じます。愛されていることが分かると下の子に対しても優しさや「小さいんだから仕方ないな」という寛容な思いやりの気持ちが少しずつ育ちます。ここで大切なことは決してその寛容さを大人が「お兄ちゃんなんだから我慢しなさい」「しっかりしなさい」と強いてしまわないこと。ただただ「あなたは私にとって一番大切」と伝えてあげてください。愛情は兄弟平等に…と思って関わっていても意外と子どもたちは「お姉ちゃんばかり」とか「私なんてどうせ…」と思ってしまうものです。一人ひとりにたくさん特別扱いをしてあげてください。お父さんもお母さんも兄弟それぞれに対して八方美人でいいのです。

(園長 関根富美子)